

えちごトキめき鉄道（新潟県並行在来線会社）の運行計画アンケートについて
地域連絡会

- 1、 アンケート配布、5,000 通に対し回収は、1,472 通（内郵送 700 通）このことは、並行在来線の今後の運行について、住民の関心の高さが現れている。
- 2、 問 2 及び 3 について、不便になるので JR 切符を今まで通り買えるように、会社に関係なく乗車距離に基づき運賃を通算する。との回答が 90%前後であることは、利用者の利便性と運賃負担について非常に関心がある現れであり、会社ごとの初乗り運賃での計算では無く、いち早く計画の具体策を示すことが求められていると言える。
- 3、 問 5 の運行区間に対する回答では、沿線住民の切実な声が寄せられている。沿線別にみると、信越線山線の回答者 1,019 人のうち 835 人(81.9%)が長野方面は長野まで、金沢・富山方面は金沢までの 270 人を加えて、富山まで 807 人（79.2%）一方、北陸線市振の回答者 286 人のうち長野までが 234 人（81.8%）金沢・富山方面は金沢までの 82 人を加えて、富山まで 278 人（97.2%）の回答であり、現在の運行計画の見直しが必要と考えていることが明らかである。
- 4、 問 6、7 までの回答で、「北越」の運行については現状運行及び減便運行の回答が、信越線山線で 770 人（75.6%）北陸線市振の回答者 271 人（94.8%）で圧倒的に廃止に反対であることが伺える。また、問 7 の「くびきの」では信越線山線で妙高高原までの延伸を望む声が 541 人(53.%)あり、現行運行 69 人を加えると 1010 人（99.1%）となり、廃止に反対である。さらに北陸線市振で糸魚川～新潟の運行を望む声が 231 人（81.6%）あり、新幹線が開業しても在来線の利便性維持が必要であることが言える。
- 5、 問 8 の雪に関する運行について、今冬の雪の影響も反映して、92.%の回答者が列車を止めるべきでなく、通勤・通学の足としての運行が必要であると訴えていることが伺える。
- 6、 問 9、10 の回答からは、運行については国及び JR の関わりが当然必要であり、住民負担の増加については否定的であることが明らかになったと言える。